

秋季  
県高校野球

# 光星・柴田 救援ピシヤリ

▽準々決勝（八戸市長根公園）

【評】八学光星は2人で迎えた五回2死一塁、久保が右越えに3試合連続となる本塁打を放ち、2点を勝ち越した。先発のエース佐藤悠が三

回途中までに2点を奪われたが、2番手の柴田が緩急をつけた投球で九回まで無安打に抑えた。弘前東は五回に奪われた2点が最後まで響き、打線も中盤以降振るわなかつた。

## 内外角を自在に

○：三回途中から救援した八学光星の柴田は、県大会初登板ながら6回1/3を無安打に抑え、7奪三振、無失点。仲井監督は「向こう気の強さが持ち味の投手。よくやってくれた」と左腕の力投をたたえた。

プレートの三塁側を踏み、右脚を上下させる「二段モーション」で淡々と投球。130センチ前半の直球にスライターやカーブ、チェンジアップを交えながら、打者に応じて内外角を自在に突いた。左肘のけがを乗り越えての登板を「マウンドに立った人がエースだと思って投げ続けた」と振り返った柴田。「チームの勝ちに貢献できるようにピッチングをしたい」と次回登板を見据えた。



【八学光星 弘前東】3回途中から登板し、弘前東打線を抑えた八学光星の柴田＝長根